



## 馬 耳 東 風

自宅の近くに都立多磨霊園があり、著名人の墓が多いことからウォーキングがてら探索をしている。正門正面やや左側に名誉霊域があり、日露戦争でバルチック艦隊を破った東郷平八郎元帥海軍大将、第2次世界大戦の真珠湾攻撃を指揮した山本五十六元帥海軍大将、山本の後に連合艦隊司令長官になった古賀峯一元帥海軍大将の墓がある。古賀の墓は、前二者の墓に比べ小さく質素なため、私も最近知った次第である。多磨霊園は、大正12年に開設され、128ヘクタールと都立霊園では最大の面積である。昭和9年に東郷が埋葬されたことにより多磨霊園の名前が広まり、これ以降利用者が大幅に増え、埋葬者数は45万体を超えている。

一般の多くの墓は、〇〇家の墓と銘が刻まれているが、著名人の墓には姓名が書かれており、中には室〇〇と奥様の名前が併記されているものもある。室以外に妻や夫人と書かれたものがあるが、仲の良い夫婦だったのだろうと思う。そのような中で特筆したい墓がある。日露戦争の旅順要塞攻撃等を指揮した児玉源太郎陸軍大将の墓のすぐ隣に全く同じ大きさの奥様の墓が建てられている。同じく明治時代の西郷従道海軍大将（西郷隆盛の弟）の奥様の墓は少し離れて小さめであり、前述した東郷の奥様の墓も小さめに並立している。墓の大きさは別として、まだ男尊女卑が普通といわれた明治時代に生きた夫婦にそれぞれの墓が建てられたのは、夫の功績は妻の存在がなくては成り立たなかったとの認識、あるいは女性を男性と同等に尊重するという考えを持つ家族だったのではなかろうかと尊敬の念を抱く。

日露戦争での児玉の活躍は、司馬遼太郎の「坂の上の雲」

にも書かれているが、日清戦争時陸軍次官であった児玉は、コレラ等の流行地から帰還する兵士による日本への感染拡大を防ぐために検疫を指示した。広島の大久保等3カ所に検疫所を建設し兵士23万人を検疫し多くのコレラ患者を隔離するという実務に当たったのは、医師でありコッホの下で細菌学を学んだ後藤新平であった。当時世界初の大規模検疫であり、外国から称賛されたとのことである。

多磨霊園には著名な科学者も眠っている。ノーベル物理学賞を受賞された朝永振一郎博士（朝永の墓は恩師である仁科芳雄の墓所内にある）、脊髄副交感神経を発見した呉建博士、梅毒の特効薬であるサルバルサン（世界初の化学療法剤）を開発した秦佐八郎博士等の墓がある。秦がエーリッヒと共にサルバルサンを開発したのは1909年であり、世界初の抗生物質であるペニシリンが発見される20年前のことである。その後多くの抗生物質や合成抗菌剤が発見され、日本においてもコリスチンやカナマイシンが発見されているが、その先駆者が秦であったことに思いを巡らし墓参した。秦の業績を称え、後世に永くその名を伝えることを目的として、(公社)日本化学療法学会は「志賀潔・秦佐八郎記念賞」を設けている。なお、世界で初めて米ぬかから脚気を予防する新規成分（オリザニン：後のビタミンB<sub>1</sub>）を抽出した鈴木梅太郎博士の墓もあったが、最近墓じまいされたとのことである。

ところで、後期高齢者の仲間入りをした私には、終活の一つでもある墓の準備が喫緊の課題である。近くの多磨霊園にと考えているが、競争倍率が高いとのことである。団塊の世代である私にとって競争は驚くことではないが、墓に入るためにも競争しなければならないのかと嘆く昨今である。 (平)